

えど 江戸時代最新の

火薬製造工場



しきね あと 敷根火薬製造所跡 (霧島市国分敷根)



江戸時代の終わり頃に、^{ごろ}鉄砲や^{たいほう}大砲などに使う火薬を製造した場所です。水車の力を利用して^{いしうす}石臼を動かし、火薬の原料を粉にしていました。

調査の結果、当時では最新かつ最大級の火薬製造工場跡で、^{いしがき}石垣や水車への^{どうすいろ}導水路、火薬の原料をすりつぶしたと考えられる石臼などが発見されました。



敷根火薬製造所跡